

一年間の水田学習の主な流れ

3-4月 田起こし

鋤を使って田んぼの土を耕します。(水田面積:約 1160 平方メートル) この時、腐葉土や鶏糞などの有機質肥料が土と混ざるようにします



4月下旬 種まき

「もちごめ」の種(種籾)を苗代にまいて、田植えができる長さ(15~20cm)まで育てます。



苗代作り：まず始めに耕運機で耕します

種まき：均一になるようにまきます



5月 代かき

耕してある田んぼに水を入れ、耕うん機で更に土を細かくし水と混ぜてドロドロにします。最後にトンボ(T字形をした道具)を使って、田植えが出来るように田んぼの表面を平らにします。



耕耘機で耕します



土のかたまりを細かくします



耕した後、平らにします。

5月下旬—6月上旬 田植え

児童が代なわを使って等間隔に苗を植えます。



田植え後の田んぼの様子

6月下旬—7月 田の草とり

児童が田植えの後に生えてくる雑草(一番草)を取ります。土の中に酸素を入れる効果もあります。



7-9月 水田管理

水の管理を行います。7月下旬には水を切る「土用干し」も行います。稲穂が出ると鳥から守るため、防鳥網を張ります。



案山子（かかし）を立てて防鳥網（ぼうちょうもう）を張った田んぼ

10月中旬 稲刈り

児童が実った稲を刈り取ります。協力の保護者が束ねた「稲束」を児童が物干しのような稲架（はさ）にかけて干します。



稲刈りの様子



保護者の方に束ねてもらった稲を、物干しのような稲架（はさ）へかけます。



11月中旬 脱穀

稲束と機械を各学校に運んで行います。約50年前に製造された脱穀機をモーターで回して児童が順番に脱穀します。また、約150年前の「千歯こき」を使って脱穀の体験もします。その後、精米業者に運び精米します。



機械で脱穀



千歯こき（約150年前の道具）で脱穀



脱穀した稲を取り出します

12月—1月 もちつき

精米された「もちごめ」を使って、各学校で児童がもちつきをします。保護者や地域の方の協力を得て盛大に「もちつき大会」が行われます。工夫した「収穫祭」を実施する学校もあります。



1月—3月 次年度の水田学習の準備

あぜ道の修繕・田起こし・腐葉土作り・水路清掃などをして、次年度の水田学習に備えます。

